

## 瑞陵会 平成22年度総会・講演会・交流会

昨年8月22日(日)メルパルク名古屋で行われた総会・講演会・交流会は参加者約150名で盛会でした。

まず総会と講演会が濱田堯副会長(瑞15回)の司会で行われました。

**総会** 高木修瑞陵会会長(瑞5回)の挨拶と簡単な事業報告、活動計画に続いて会計の説明が、平成22年度からの会計担当、鈴木英利教諭(瑞27回)からありました。

『瑞陵会報2010』に掲載した平成21年度瑞陵会会計決算書と平成22年度瑞陵会会計予算書(案)に訂正があります。

決算書の収入の部、収入済額の列、繰入金の「1,072,800」を「0」に、賛助金「0」を「1,072,800」に訂正、それに応じて増減額も訂正、摘要の列、繰入金の「百周年記念事業会計から繰入」を削除、賛助金の行に「会報広告収入等」を入れる。

予算書(案)の前年度収入額の列で繰入金と賛助金の数字を入れ替える。それに応じて増減額を訂正、摘要の列、「百周年…」を削除する。

理由、会報の広告代が郵便振替口座に振り込まれて



いるのを、本会計の銀行口座に移し変えずにいた、前回指摘されて2009年9月に繰り入れたが、決算書の記載場所を間違えた。前任会計担当から訂正とお詫びをしてほしいといわれた。

以上の訂正を入れて会計決算、予算を総会は承認しました。

引き続き、平成22・23年度瑞陵会役員として、『瑞陵会報2010』に掲載した案どおり承認しました。

## 平成23年度 瑞陵会講演会・交流会のお知らせ

**日時** 2011年8月28日(日) 12:30~16:00

**場所** メルパルク名古屋

名古屋市東区葵3-16-16 (JR千種駅徒歩5分、地下鉄千種駅1番出口すぐ前)  
電話 052-937-3665

**会費** 5,000円 当日会場でお支払いください。(平成21年以降の卒業生は無料)

**日程** 12:00 受付開始

12:30~記念講演(2階) 講師:野中 勝氏 (瑞21回、東日本大震災に際しての緊急消防援助隊愛知県隊第3次隊長)

14:00~交流会(3階にてビュッフェ方式のパーティ)

講演会

演題「健康は歯を大切にすることから」

講師 濱島誠一郎氏（瑞20回、歯学博士、はまじま歯科医院院長、愛知学院大学歯学部非常勤講師（歯科矯正学）、1998年から愛知学院大学歯学部同窓会国際交流委員会の一員として海外ボランティア活動に従事、10年間フィリピンで子供たちに対する医療活動に参加）



講演要旨

80・20運動は平成元年に愛知県医師会が主唱したもので、今では全国的になり表彰を受ける人も年々増えている。

歯を無くす原因の一番は歯周病、二番は虫歯、三番が外傷による歯牙破折。四番目として矯正のとき抜くことも。

歯周病（歯槽膿漏）は年齢とともに増える。歯の周辺の模式図によって歯周病を説明する。歯の磨き方が足りなくて歯と歯茎の境目に汚れ（歯垢）がたまると、歯垢中に歯周病菌がいて毒素を出す。歯茎に炎症が起き、破骨細胞ができて骨を吸収し、歯槽骨が無くなって歯がぐらぐらになる。

歯周病の予防には、①食べたらずぐ歯を磨く。3分以内に、できれば3分間以上磨く。細菌によって、歯の表面の酸性度が時間とともにあがる。②間食はなるべく避ける。③是非定期健診を。保険でできる。歯垢は時間がたつと歯石になる。歯石は歯周ポケットの中へどんどん入っていく。歯石は歯ブラシでは取れない。歯科医へ行き2～3ヶ月に一度歯石を取ってもらう（スケリング）。④喫煙すると歯周病が進みやすい。⑤糖尿病は歯周病を進行させる。歯科医師会と医師会が連携して患者のケアをしようという動きがある。

歯の無くなる原因二番目、虫歯について。歯は複雑な形をしている。溝の深いところ、歯と歯の間など磨きにくい。また充填の取れた痕をそのままにしていると、それらのところから虫歯が始まる。エナメル質にとどまるのがC1の状態、象牙質まで進んだC2になると物がはさまる、甘いものや冷たいものがしみる。C2ぐらいまでは受診して欲しい。放っておくと、神経まで達するC3になり、夜、寝ていると痛み、歯髄炎の症状

になり、神経を取らねばならず、手間がかかる。放っておいてC4になると、痛みが消える。実は、炎症が進んで、歯根膿胞ができて、歯茎がはれ、重症になると顔もはれる。切開が必要。

虫歯の予防には、フッ素入り歯磨剤を使う。高価な物は必要ない。要は磨き方。一日三回、三分以上、歯茎には葉は浸透しにくい。

三番目の破折について。硬いものを噛むと、特に神経を取った歯は、縦に割れる。また、スポーツで、人とぶつかって歯が折れる。高校ラグビーではマウスピースが義務付けられている。

四番目の矯正について。

歯はばねで押していると1ヶ月に1mmぐらい動く。歯列矯正。年齢が上がると動きにくくなる。治療した3例を写真を示して説明する。

第1例、八重歯が気になる、11歳5ヶ月。第3歯（犬歯）が外へ出ている。犬歯は最も根が長い。年寄り歯が抜けるとき犬歯は最後に残る。破骨細胞に侵されるのは根の短い歯から。矯正専門の歯科医は犬歯を抜かない。余裕を作るため抜くのは第4歯（小白歯）。歯は空いたところへ自然に移動してくる。特殊な装置で犬歯を内側へ引っ張る。完治。抜いた隙間は残っていない。歯の数は上下2本ずつ減ったが、でこぼこより良い。八重歯は咀嚼の働きをしない。抜かずに治したいが、人により歯が大きい場合は抜く。

第2例、親知らずが横を向いている。伸びるにつれて前歯にしわ寄せが起こる。早めに抜いた方がよい。

第3例、永久歯を抜かずに治した例。18歳3ヶ月、歯のでこぼこ。下の第3歯が内側へ傾斜、第4歯（小白歯）は内側へはいて、90度横向き、他の歯も上下とも内側へ傾斜。他の歯科医では抜くしかないといわれた。第3、第5間にばねをかけ、スペースを拡大、強制装置で第4歯を移動させた。歯の横向きは時間がかかったが大分治った。治療に3年、経過観察に2年、合わせて5年。

第4例、足かけ6年かかった難症例。前歯が受け口、右上の3番（犬歯）が1、2番の根元に横たわっていた（埋伏）。内側にアンカーの役をする装置を埋め、歯茎を切開して、埋まっている歯の頭に牽引用の金具を接着、弾性のあるプラスチックで引っ張る。じわじ

<p>株式会社 東谷商店</p> <p>代表取締役 東谷正文 (瑞5回)</p> <p>〒467-0878 名古屋市瑞穂区船原町1丁目15番地 TEL.052-881-0700 FAX.052-881-2909</p>	<p>近藤産興株式会社</p> <p>代表取締役 近藤昌三 (瑞10回)</p> <p>〒457-0822 名古屋市南区浜田町1-10 TEL.052-614-2511 FAX.052-611-5826</p>	<p>工一ル国際特許事務所</p> <p>弁理士 間瀬 銈一郎 (瑞11回)</p> <p>〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-7 丸の内OSビル4F TEL.052-959-4520 FAX.052-959-4522</p>
---	---	---

わ動かして揃えた。しかし、第3歯が埋まっていたことにより破骨細胞ができて第2歯の歯根が無い状態になっていた。そこで両側の歯に接着することによって保たせた。

以上で講演を終わりますが、皆さん歯を大切にしてください。

## 交流会

総会・講演会のあと交流会は別室で着席形式で、伊豆原直副会長(定15回)の司会によって開催されました。高木会長の挨拶に続き、山口晴久校長の挨拶がありました。山口校長はおおよそ以下のように話されました。

「4月(H22年)に赴任したが、小田前校長から、文武両道を大切にすることを受け継いだ。武の面では運動部のインターハイ予選での活躍がすごい。陸上部は多くの選手が全国大会(沖縄)に出場した。定時制バドミントンは全国大会(小田原)で活躍した。文の面では文芸部が全国総文祭(宮崎)の短歌部門に出場した。私は県高文連副会長として総文祭を観たが、その大規模、高レベルなことに驚いた。H22年度進学状況

では名大合格者が30人に達した。

瑞陵へ来て驚いたのは廣瀬清市奨学事業だった。生徒海外派遣は22年度が最後になるが、廣瀬氏の意志を受け継ぐ後継事業が、濱島誠一朗氏(瑞20回)に御寄付を頂いて、7月(H22年)に発足した。生徒の自主的研究を助成したり、先生が一工夫して見学会などを催すのに充てる。このような事業は他校に類を見ない。教員一丸となって瑞陵生を大きく伸ばす努力をしたい。皆様には、瑞陵会の発展だけでなく、現在の瑞陵生のためご支援をお願いします」

続いて、関東瑞陵会会長飯田治利氏(瑞9回)の発声で乾杯しました。飯田氏は瑞陵在学時代ひたすら柔道に励んだことを語り、また関東瑞陵会設立の経緯と、その設立の功労者で当日出席していた三武真人氏(瑞5回)、江副嘉彦氏(瑞16回)を紹介しました。関東瑞陵会は隔年に総会を開き、H22年の総会には史上最高の142人が参加したとのことでした。

交流会はこのあと、各グループでの歓談が続くなか、有志提供による景品の抽選会もあり、五中と瑞陵の校歌を斉唱してお開きとなりました。(文責:武藤)



## 会 長 挨 拶

瑞陵会会長 高 木 修  
(瑞5回)

恒例の瑞陵会(総会)交流会は、これまで伊豆原副会長のもと、(総会)交流会実行委員会有志のご協力で行っていましたが、伊豆原副会長が健康を害されたことから、これまで実行委員を務めていただいた神谷彰彦さん(瑞22回)を委員長代理とし、常任幹事の澤田耕一さん(瑞21回)の呼びかけでお集まりいただいた同期の方々を中心に実行委員会が結成されました。その後、数回の準備会を経て、交流会の開催が実現する運びとなりました。神谷委員長代理、澤田委員他、ご尽力いただいた皆さまに感謝を申し上げる次第です。

現在の高校生活は僅か3年で、実質的な高校生活を実感できるのは、高校2年生の1年間位であるのが実

情であり、殆どの卒業生は地元を離れ、全国各地へ進学もしくは就職しております。

そのため、同窓会の本来の機能は事務局を整備し、同窓会関係の資料を充実し、情報提供することにあるのですが、人件費等の経費の問題ばかりでなく、個人情報保護法による規制があり、運用に支障をきたしているのが現状であります。

同窓会は、殆どがクラス単位で開催されており、40歳の厄年や還暦等の節目の年に同期会を開催している期もあると聞いています。5回生は、これまで2回程同期会をもち、今年の5月、77歳喜寿の会を開催しましたところ、同期生500余名のうち、50数名の出席者がありました。

今回は、還暦を迎えた卒業生に中心になって準備いただき、交流会を開催できることになったのでありますが、来年度以降の(総会)交流会もこの例を引き継いでいただけることを切望し、ご挨拶いたします。

<p><b>明治電機工業株式会社</b></p> <p>代表取締役社長 <b>安井善宏</b> (瑞13回)</p> <p>〒453-8580 名古屋市中村区亀島2-13-8 TEL.052-451-7661 FAX.052-451-3453</p>	<p><b>株式会社 光商会</b></p> <p>取締役社長 <b>吉田明弘</b> (瑞13回)</p> <p>〒456-0052 名古屋市熱田区二番一丁目14-8 TEL.052-682-6211 FAX.052-671-0135 URL <a href="http://www.hkr-s.co.jp">http://www.hkr-s.co.jp</a></p>	<p><b>名古屋フランスcorp株式会社</b></p> <p>代表取締役会長 <b>服部幸三</b> (瑞14回)</p> <p>〒470-0112 愛知県日進市藤枝町西外面16 TEL.0561-75-4600 FAX.0561-75-4545 URL <a href="http://www.nagoyafrance.co.jp">http://www.nagoyafrance.co.jp</a></p>
---	--	---



震 災 に 思 う

校長 山 口 春 久

未曾有の大震災から数ヶ月。被災した東日本地域の日も早い復興を祈念するばかりです。また、瑞陵会の会員の中にも被災された方があるのではないかと心配をしております。

さて、今回の震災では高校や高校生の状況があまり報道されていません。高校に奉職する者にとっては気になる場所であり、私なりに調べてみました。三陸海岸の被災地には高校が20校ほどありますが、多くは高台にあり地震の被害はあっても津波の被害は少なかったようです。ただ、無事だったからこそ避難所になり、高校生がボランティアとして担い手になっていた（今でもなっている？）ことは間違いないようです。また、学校は無事でも、生徒の中には家族や住まいを失い、失意と悲しみを乗り越えて地域のために活躍する高校生も多く見られるようです。

ここに被災地の一つ岩手県大槌町にある岩手県立大槌高等学校を紹介します。大槌町は、中心部が壊滅状態になり、町長が遺体で発見されたり船が建物の上に取り残されたりして報道された町です。大槌高校は津波の被害はなく、体育館が避難所になり、グラウンドは自衛隊の臨時基地になり、同窓会館が臨時幼稚園になり、今もなお地域復興の拠点として多くを担っておられます。この避難所を訪問した岩手県知事は、高校生ボランティアの奮闘ぶりに感心し、被災者の慰労とともに高校生への賛辞を述べ、被災者からも同調する大きな拍手があがったとのこと。大槌高校の校長は、「そんな生徒を誇りに思う」と4月末の遅い入学式で述べたそうです。また、岩手県ではインターハイ予選の総合開会式が5月にあり、大槌高校の生徒は、「笑顔・感謝・前進」の横断幕を掲げ入場行進したそうです。大槌町には、知る人ぞ知る「ひょっこりひょうたん島」のモデルといわれる蓬莱島という島が町のシンボルとのこと。♪「苦しいこともあるだろさ。悲しいこともあるだろさ。だけど僕らは挫けない。笑っちゃおう。

進めー。」の歌詞から、生徒会が作ったスローガンだそうです。

私達は被災者に何か勇気を与えられないかと思うところですが、むしろ、被災者から勇気をもらう方が多いのではないのでしょうか。来たる東海地震・東南海地震・南海地震への対策や準備を<sup>ゆめゆめ</sup>努々怠らないよう、しかし、困難に遭遇してもくじけない強い心を持った生徒を育てていかねばならないと思います。

最後に、本校の近況報告とお礼を。毎年、瑞陵会には多くの御援助を頂いております。百周年以来継続の御園座「ポプラシート」。昨年度から本年度にかけて、全日制の陸上部・文芸部・棋道部、定時制のバドミントン部・陸上部が全国大会出場を果たしました。この栄誉を大変嬉しく思うとともに、瑞陵会から出場生徒への激励金を頂いておりますことに改めて感謝申し上げます。さらに、本年度は視聴覚室にエアコンを新調して頂きました。いずれも本校教育活動への瑞陵会の期待の表れとして、大変有り難くまた身の引き締まる思いがしております。

伝統的な「大きく育てよう」の瑞陵に、さらに、震災の教訓を生かし、心の強い人間を育てる瑞陵でありたいものです。

五中・瑞陵史発掘

写真解説

前号に西脇隆治氏（瑞定5回）のご寄稿「在学当時のクラブ活動『瑞陵文学・新聞部』に関して」を掲載しました。

西脇氏は1949年瑞陵高校夜間過程入学当時の文学研究部、改称後の文学部、また、創設された新聞部での活動状況を書いておられます。

西脇氏は貴重な現物資料を多数、瑞陵会へご寄贈下さいました。その中の1点の写真をここに掲載します。



「文学研究」第7号表紙

<p>株式会社 新栄商会</p> <p>代表取締役 会 長 時 津 忠</p> <p>(瑞15回)</p> <p>〒468-0056 名古屋市天白区島田2-516 TEL.052-801-1222(代) FAX.052-803-1321</p>	<p>滝山獣医科</p> <p>獣医学博士 滝 山 昭</p> <p>(瑞16回)</p> <p>〒458-0835 名古屋市緑区鳴海町上汐田220 TEL.052-621-0179 FAX.052-621-2020</p>	<p>栗田敬八税理士事務所</p> <p>所 長 栗 田 敬 八</p> <p>(瑞19回)</p> <p>〒454-0912 名古屋市中川区野田1-193 TEL.052-351-0251 FAX.052-352-8268</p>
--	--	--

五中・瑞陵史発掘

瑞陵のポプラ

—北大のホプラ並木がルーツ—

三 品 耕 作 (瑞47回)

mishina\_kosaku[at mark]hotmail.com

瑞陵高校の敷地（北原町）は、旧制愛知県立商業学校（以下、「旧愛商」という）の跡地である。瑞陵の校史は、旧制五中との連続性に眼を奪われ、敷地についての旧愛商との連続性を見過ごしている。そのため、なぜ瑞陵の校樹がポプラであるのか、今まで瑞陵史で言及されたことはなかった。今回、『愛商45周年史』（1964年出版。以下、「愛商史」という）を参照することによって、瑞陵のポプラの由来が初めて明らかになった。

同史の「創立時代」の章には、「愛商とポプラ」と題する、次のような記述がある（筆者は、愛商の教員（当時）で、五中の卒業生でもある塚本守男氏（五中12回））。

「1923年（大正12年）の夏休みに（旧愛商の）一回生有志若干名が北海道樺太研修旅行に出かけた。当時北海道大学のポプラの並木のうつくしさにうたれ、ポプラを校樹とする要望が入れられ一回生の卒業記念として植樹した。それが、今天に沖する大木となっている」（愛商史16頁）。

「第一回卒業式は1924年（同13年）3月15日本校内で行われた」（同17頁）。

「ポプラは愛商の象徴であり校樹であった」（同頁）。

瑞陵の校樹であるポプラは、旧愛商を媒介に、北大のホプラ並木に由来していたのである（もっとも、北大のポプラ並木は、植樹されたのが1903年（明治36年）であるため、旧愛商一回生が訪れた当時はまだ20年ほどの若樹であり、樹齢100年を超えた今のように大木ではない）。

実は昨年まで北大で大学院生として学んでいた私は、勉強に疲れた折にはキャンパスを散歩がてら北大のポプラ並木に慰めてもらっていた。2つの母校がポプラで結ばれていることに不思議な縁を感じている（ちなみに、五中の校樹は、五中の正門跡のほぼ正面に位置する大矢洋服店の旦那曰く、台湾楠木である。今でも、五中跡地である市立瑞穂ヶ丘中学校の敷地（高田町）で、大木となった楠木が葉を広げているのを垣間見ることができる）。



瑞陵のポプラ 2011年夏（編集部）

原稿募集のご案内

編集委員会では、『五中・瑞陵史発掘』シリーズの原稿を求めています。事件、出来事、卒業生の活躍、学校行事、生徒会活動、クラブ活動などについて書いていただける方、資料を提供していただける方はふるってご寄稿ください。また、どなたかを推薦していただけるのであれば、その情報も編集委員にお知らせください。

編集責任者：浜島昭二（瑞19回） shoji.hamajima@gmail.com

佐久間医院

院 長 佐久間 修 三

(瑞19回)

〒464-0811 名古屋市千種区朝岡町2-1  
TEL/FAX.052-781-0430

司法書士グリーンフォーラム

司法書士 林 勝 博

(瑞19回)

〒458-0036 名古屋市緑区六田1丁目200番地  
TEL.052-624-1885 FAX.052-621-1384

株式会社エイチ・ケイ・コーポレーション

代表取締役 加 藤 秀 雄

(瑞25回)

〒352-0006 埼玉県新座市新座1-13-19  
TEL.048-485-1483 FAX.048-479-7701  
Email katochan@df6.so-net.ne.jp

第13回生徒海外派遣 (ニュージーランド)

2010年12月23日～31日 生徒14名、引率者3名  
団長 村松 憲一 (瑞19回)

23日 名古屋駅に集合し、バスで関西国際空港に移動。ニュージーランド航空、10時間40分の飛行でオークランドに24日5時10分(現地。夏時間で時差4時間)着。乗継ぎ時間を利用してイーデン山火口跡へ。市街遠望。ヒツジの放牧。空路、南島南部のクイーンズタウンへ。昼食は羊の肉料理。バスでテアナウへ。フィヨルドランドビジターセンターではフィヨルドについて学んだ。25日 バスでミルフォードサウンドへ。フィヨルド地形を船から見学。海中展望塔ではらせん階段を下りて海面下12mの海の中が見られた。夕食後、洞窟で土ボタル(グローワーム)見学。26日 バスでクイーンズタウンへ移動。ニュージーランドの鳥キウイを見た後、全員でリュージュを楽しんだ。グレノーキーは「ナルニア国物語」「ラストサムライ」「ロードオブザリング」のロケ地になった別世界の景色。天体観測の予定は風雨が強くなり中止。

27日 予定の氷河ウォークは道が大雨で封鎖されていて不能。フランツジョセフ氷河に予定変更し、たどり着いた展望台からは青白い光を放つ神秘的な氷河が遠望できた。相変わらず大雨。かっぱ着用で林の中のグローワーム観察は全員びしょ濡れ。28日 豪雨で橋は封鎖、クライストチャーチへ行く道はすべて水没、通行不能。引き返してホキティカカのヒスイ加工工場を見学。午後3時過ぎ、予定とは別の峠が開通し遠回りになるが行けるかもと出発。道に倒れた木、崩壊した道路、床上浸水の家、なのに陽気に手を振ってくれる住民、ボートを出して遊ぶ人たち…。ホットケーキをたくさん重ねたようなパンケーキロックスを見学。バスを降りて少し天体観測…南十字を見た。ホテルに23:20到着、遅いディナー。到着できたという安堵感。

29日 クライストチャーチでカンタベリー大学見学。国際南極センター見学…雪上車やらブリザード、4D映画(なんと水や泡が飛んでくる)などいろいろ南極体験できた。クライストチャーチのシンボル大聖堂へ。9月4日の大地震の余震が2日前あり、復旧作業中。昨日までは入場できなかったとか。らせん階段で塔に登って街の景色を見た。午後は自由散策。ホテルに集合してハンギ料理を食べマオリショーを見学…マオリ

人は陽気で楽しい人たちだった。郊外の牧場に出かけて、天体観測——満天の南半球の星空、星雲、天の川、流れ星…。30日 6:00ホテル発。空路北島のロトルアへ。ポフツ間欠泉はちょうど吹き出していた。泥火山、サーマルワンダーランド、ワイラケイ地熱発電所、フカ滝を見学。タウポ湖畔を散策した後、オークランドへ。31日 6:30ホテル発。9:15のNZ99便で成田へ。乗り継いで19:50セントレア着。解散。

追記 ニュージーランドでは昨年9月4日にM7.0の地震が発生。今年2月22日の地震ではクライストチャーチ大聖堂の塔が崩落、日本人留学生も多数死亡。さらに、6月13日にもM6.0の地震が起きた。日本でも2011年3月11日に東北地方太平洋沖地震Mw9.0が発生した。過去の地殻変動の見学が大きな1つのテーマであったが、旅行中にも地震の影響、大雨とそれによる侵食作用といった自然の脅威をナマで体験することとなり、帰国後2か月足らずで「自分の登ったあの塔が崩落」という衝撃。さらに日本でも東日本大震災——。という研修旅行になった。

なお、生徒海外派遣はこの回が最後で、廣瀬委員会は3月に終了しました。

ニュージーランドの感動

藪 下 千 晶

こうして家で感想文を書いていると、あの9日間は夢だったのではないだろうかという不思議な感覚に陥る。しかし、すぐにその感覚は実感へと変わる。なぜなら、わたしはこの海外派遣のすべてを、鮮明に記憶しているからだ。その「夢のような」9日間をほんの一部分だけではあるが、書き残しておきたいと思う。

まず、25日に行ったミルフォードサウンドだ。わたし達はフィヨルドの中を船でクルーズした。船の上のデッキから見た光景は、今でも忘れることができない。おそらく、これから先も忘れることはないだろう。船でのクルーズは約3時間ほどであったが、氷河が山々を削っていった時間の長さ比べると、なんだか気が遠くなっていくような感じがした。このミルフォードサウンドの壮大さは、言葉では言い表すことができない。ここへは、絶対にもう一度訪れたい、そう思った。

このミルフォードサウンドでは、とても楽しかった

<p>太子歯科医院</p> <p>院 長 小 森 敦 夫 (瑞33回)</p> <p>〒458-0823 名古屋市緑区太子2-190 TEL.052-623-1184 FAX.052-623-0799 URL <a href="http://www.taishi-dental.com/">http://www.taishi-dental.com/</a></p>	<p>かみのくら整形外科</p> <p>院 長 加 藤 齐 (瑞35回)</p> <p>〒458-0808 名古屋市緑区東神の倉三丁目1805番地 TEL.052-875-0555 URL <a href="http://www.myclinic.ne.jp/kaminokura/">http://www.myclinic.ne.jp/kaminokura/</a></p>	<p>てらかど動物病院</p> <p>院 長 獣 医 師 寺 門 俊 博 (瑞45回)</p> <p>〒465-0087 名古屋市名東区名東本通5-19 TEL.052-703-1101 FAX.052-703-1189 URL <a href="http://www.terakado-ah.com">http://www.terakado-ah.com</a></p>
--	--	--

ことがある。ミルフォードサウンドの山の斜面には、たくさんの滝が流れている。そのうちの1つ(おそらくスターリン・フォールであろう)にクルーズ船が接近した時があった。わたしはデッキの最も先端でその滝を体感することにした。一言で表すとしたら本当に…「exciting!!」であった。滝の水しぶきが勢いよく飛んでくるのだ。まるで子どものようにしゃいでいた。しかし船が滝から離れ、船内へ戻ってみれば、全身びしょぬれである。それでも思わず笑顔になってしまった。もう1つは船長さんと少しだけおしゃべり(?)したことだ。ここでは幸運なことに、操縦席に座らせていただいた。船長さんに怒られてしまうシーンもあったが、操縦席から見たフィヨルドもまた、格別であった。

27日、この日は天候が悪く、雨であった。そのため、予定されていたフォックス氷河での氷河ウォークは、中止になってしまった。フォックス氷河のビジターセンターで展示を見ている時、わたしはどうしようもなく悲しかった。あの氷河の上に自分が立つことができないことに対する悔しさも混ざって、複雑であった。その後、わたし達は、もしかしたら見られるかもしれないというかすかな希望を持って、フランツ・ジョセフ氷河へ向かった。展望台から土砂降りの雨ごしに見たフランツ・ジョセフ氷河の青白い光。わたしは、それはまるで光る刃のようだと思った。自然の脅威というものを、ニュージーランドに来て初めて感じた瞬間でもあった。その脅威に圧倒されると同時に、その氷河にチャレンジしてみたいという気持ちがどんどんわいてきた。すぐにでも走ってあの氷河まで行ってしまいたい、そんなふうに思った。先ほどまでの複雑な心境はどこかへ消えてしまって、その場を離れられなくなりそうだった。バスに乗り込む時の、ガイドさんの「リベンジに来てね。」という言葉に、力強くうなずき返していた。

同じ日の夜、わたし達はホテル近くの森に入った。非常に激しい雨で足元がぬかるむ中、しばらく進むと、木の根元が点々と白く光っている。グローワームだ。このグローワームとは25日にテ・アナウ洞窟でも会っているが、この日もまた、美しかった。それはグローワームがお腹をすかせていたせいもあると思うが、いま思えば、それは小さな銀河系を見ているようでもあった。そしてその美しさの一番の理由は、あの日あの日だけの「状況」ではないだろうか。悪天候にも関わらず、みんなで一列になって歩いた森の中。時折大群をなして光り輝くグローワーム。そのすべてに、わたしは感動していた。

28日、フォックス氷河からクライストチャーチへの移動は、前日の大雨の影響を強く受けることになってしまった。しかし、ホキティカという予定にはなかった街に立ち寄ることができた。この街で、わたしはヒスイのペンダントを買った。そのヒスイは、マオリの伝統の「コル」という形に加工してあり、思わぬところでマオリの力を分けてもらうことになった。コルには発展、進歩といった意味があるそうだ。それをつけてみると、なぜだかは分からないが、自分に大きな味方がついたような気持ちになった。

29日の夜、わたし達はバスに乗って、クライストチャーチから少し離れた牧場へ向かった。星を見るためである。周りには何もなく、明かりはごくたまに通る車のライトだけ。そんな中で見た星空は、本当に、涙が出るほど素晴らしかった。そして、日本では決して見ることでできない南十字星も、しっかりと確認することができた。なんと、流れ星を見た人も、何人もいたのである。わたしもそのうちの1人である。この宇宙には、あんなにたくさんの星が存在していることを、わたしはそれまで知らなかった。気がつけば、道路の脇で、無言のまま立ちつくしていた。

思い出してみると、ニュージーランドの方は皆、とてもフレンドリーであったような気がする。お店の店員さんなどは、ジェスチャーも混ざったわたしの決して上手とは言えない英語に、懸命に耳を傾けてくださった。しかし何とか伝わったと思った後、必ず後悔が襲ってきた。あの単語を使えばよかった、あの文法があてはまったのではないかと、それをとっさに思いつくことのできなかった自分を悔いるのだ。そして、自分ではどうにも伝えられないことを、友達に通訳してもらった時。その友達に感謝しつつ、自分に腹が立つほどであった。自分の会話力を少しでも鍛えられたら、そう切に願うことが何度もあった。そのために必要なのは、たくさんの会話と、単語などを反復練習することではないだろうかと思う。今、英語で会話をするチャンスはわたしにはあまりない。このチャンスはこれから先、増えていくだろう。ならば今すべきことは…練習だ。いざという時のために、しっかり準備しておくことだ。少しばかり遅いような気もするが、この海外派遣はそのことをわたしに、はっきりと気づかせてくれた。これからの英語の授業に対する意気込みも、変わっていきそうだ。

最後に1つだけ、書いておこうと思う。立ち寄ったホキティカの街でのランチの時の出来事だ。食事が運ばれてくるまでの間、同じテーブルについて友達5人で、各々の「将来の夢」について語り合った。そこでわたしがある1人の友達に尋ねた「将来何かやりたいことないの?」という質問に対する返事が、どうしても頭から離れないのだ。その友達はこう言った。「やりたいことはあるけど、それが決まらないんだよね。」と。わたしは、このニュージーランドで、興味をひかれる物がたくさんあった。やってみたくとも、この感想文には書き尽くすことができないほど見つかった。この時語っていた自分の将来の夢さえ、揺らぎ始めている。しかしそれを、どれか1つに決めると言われたら…。それはできない。それらの物事についての様々な面を吸収し、考え抜いていかなければならないと思う。今はその時期にあたるのかもしれない。そう考えると、この言葉に深く共感し、そして、自分は常に吸収体でありたいという思いに駆られた。そして、このニュージーランド派遣で学んだすべてのことは、必ずわたしの可能性を広げてくれるであろう。そう信じている。

このような機会をくださった亡き廣瀬先生、協力してくださったすべての方々にお礼申し上げます。と思います。

## 廣瀬先生へ〔第12回生徒海外派遣報告〕

教諭 梶野 玲子(瑞25回)

廣瀬先生は、第1回の海外派遣の報告集にこう書いていらっしゃいました。

「(この)海外派遣は、若い諸君には大きな財産になったはずである。もっともっと大きくなって欲しい。もっともっと視野を広げて欲しい。夢を持たない人生は味気ないものである。好奇心の旺盛な今のあなた方の年頃を逃す手はない。そのためにもこの海外派遣の経験を今後も引き続き各地に続行していきたい」

その思いを感じながら、私自身は万博に始まる様々な国内企画への参加、そして海外派遣の英語作文の審査、京都大学博物館見学の企画・引率などのお手伝いをしてきました。そして今回のフランス派遣、生徒を引率して海外に行く機会は二度とないと思い切って参加させていただきました。

廣瀬先生、今回行った生徒たちは残念ながら先生に直接お会いし、お人柄に触れ、言葉をいただくことは出来ませんでした。廣瀬奨学事業委員会の中神委員長から先生の思いをきちんと教えられ、若い感受性と好奇心で多くのことを感じ、学んで帰ってきました。生徒たちの感想を少し拾ってみます。

●『「フランスって本当にあるんだ」フランスに着いた瞬間にそう思った。今までテレビでしか見たことの無かったフランスに自分が今たっている。そのこと自体が夢みたいだった。私はこの派遣に申し込むとき、経験を通じて得たものが、この先私が創っていく作品に多大なる影響を与えるのではないかと思ひ応募した。実際…想像をはるかに超える影響を受けた。私が描く絵も創る作品も影響を受けていると思う。初めて乗った飛行機はやはりこわかった。機内食は思っていたよりおいしかった。成田パリ間の飛行機から降りた瞬間のことは、多分一生忘れないと思う。大変きれいだった。とてもいい香りがした。フランスはいい香りのする国なんだと嗅覚に刻まれた。フランス人はみんな香水をつけているからかな？みんないい匂いがした」

●「フランスには、日本と全く違う環境や考え方があった。…一番衝撃的だったのはマクドナルドだ。フランスのハンバーガーを一度は食べてみたかったので、長蛇の列(日本ではあり得ない異様な光景)に並んだ。やっとのことで前に3人並んでいるところまでたどり着いたのに30分たっても進まない。前の人がたくさん注文をしているわけではない。残念ながら自由時間が決められていたので、購入はできなかった。…このようにフランス人は日本人のようにせかせかしてなくて、時間をゆったり使うようだ。あまりにも行動が遅いのでイライラしてしまうことも多々あるが、『反発するとわざと遅くされる』とガイドさんが教えてくれた。どんなに予定がずれてしまっても、ガイドさんが『なんとと言ってもここはフランスですから』という理由で済ましてしまうのも面白かった」

●「ファーブル記念館を見学した。私は虫が苦手で、アリもチョウもだめだったのだが、ファーブルの庭がとても綺麗で、気がつくとも一番奥のほうまで来ていた。せっかくだから建物の中も見てみようと思ひ入ってみると、意外とこじんまりしたところだった。虫は美術品のように光り輝いていて、美しいものばかりだった。虫を美しいと思ったのは初めてだ。虫が苦手なはずの私は、その後ハチを見ても逃げることがなくなり、自分でもびっくりしている」

●「エトルタ見学。町並みはまるでディズニーシーに来たような光景。奥へ進むと海岸が広がり、海に向かって左がアヴィル断層、右手がアモン断層。両方の断崖を登った。海の色は緑に近い澄んだ色で、きれいだった。崖っぷちには手すりも何もなく、スリル満点。突風が吹くたびにひやりとした。この日はあいにくの曇天だったが、チョーク層(中生代白亜紀の真っ白な地層)がとても美しく見えて感動した」

●「今回行った中で、一番心に残ったのは、モンサンミッシェルだった。モンサンミッシェルは、フランスに行く前から一番楽しみにしていたところ。あの世界遺産が見られるなんて！しかも中に泊まれるなんて！私は幸せ者だと思った。修道院のなかは、すごいかでは言い表せない、もはや神秘的だった。夜、モンサンミッシェルを見上げた景色は、きれいすぎて涙がでそうだった。あの景色は、一生忘れないと思う」

●「いよいよとても楽しみにしていたパスツール研究所見学の日がやってきた。パスツールさんが使った顕微鏡や殺菌する機械、当時のままの肉汁が入った白鳥の首フラスコなど見ているだけでワクワクが止まらなかった。実際使われていた部屋は家具から小物までとてもお洒落で、パスツールさんが歩いた場所を私も歩いているのかと思うと信じられなかった。こんな貴重な体験ができるなんて本当に幸せだと思った」

●「正直にいうと、僕は全く美術という分野に興味なかった。ルーブル美術館も、教科書や本でよく見かける作品の本物が見れるという点のみの楽しみでした。しかしガイドさんの作品の背景や豆知識の解説を聴きながら作品の細部を見れば見るほど、その作品のとりこになっていった。一つ一つの作品に対する見方が360度変わった。ここでの見学が僕の美術観というものを教えてくれた」

●「ルーブルに来て改めて、いろいろな角度から生の名作たちを拝むことが出来るんだと感動した。いままでは写真ならその写真の、映像ならその映像の視点とあった、誰かが固定したものでしか見られなかったものが自分の好きな視点から見られる自由をいうのは、本当に素晴らしいものだ。だから、いろいろな作品について、この作品はこうだという、長年のあいだに確立してしまった視点からのイメージも、私の中では大分変わった。オルセーではすぐにムーランド・ラ・ギャレットへ向かった。これも私が想像していたより少し小さかったけれど、美しさはそれをはるかに上回っていた。写真などの縮小されたものを見た限りでは、細い筆で描かれているのだらうと思っていたが、実際は

かなり太い筆で描かれていることがわかった。しかし離れてみると細部までしっかり描き込まれているように感じられて、かなり計算されて描かれているように思えた。また同時に、ルノワールの感性と技術の素晴らしさも再実感した。私が一番好きなこの絵を見ることができて、本当に良かった」

●「今回の旅行は行った目的地で何かを感じたり、しっかり見てくることはもちろんのことだったが、旅行の醍醐味の一つでもある先ほどあげたようなちょっとしたハプニングもあったし、感性的にも人間的にも非常に成長させてくれるものだった。自分で言うのもなんですが若い感性でこのように海外を見てくるのが、何よりも将来を見据えて考えれば有益であると思う。ほんとにこの10日間は僕の人生において貴重な貴重な時間でした。いつかこの海外派遣の経験をより引き出せる日が来ることを信じて1日1日大事にしていこうと思う」

●「見て感動したものや風景の中に『なぜ』そこにそのものがあり、どうやってできたのか疑問に思うことがたくさんあった。それらの一つ一つに理由があり、その時代を過ごした人々の生きざまや大自然の移り変わりなど、すべて答えは歴史のなかにあると思った。そして、なぜ今それが存在するのか？それは今を生きている私たちが感じとり後世に伝えて行くためではないかなと思った。私にとってこの海外派遣は将来への通過点だと思っている。この体験を活かし将来につなげていきたいと思う」

●「こんなに楽しく、たくさんの経験を積むことが出来た10日間は私にとって一生忘れることのない宝物です。そんな素敵な宝物をくださった廣瀬先生に感謝の気持ちでいっぱいです。直接お礼を言うことが出来ず、とても残念に思います。本当にありがとうございます。次は自分の力で外国に行きたいと思います」

彼らがこれからの人生でこの財産をどのように生かして行くか、見守り応援していくのが引率した我々の仕事だと思っています。

瑞陵生は、どの先生も異口同音に言いますが、「エネルギーで、柔らかい心を持ち、心根が優しい生徒たち」です。(それが瑞陵の遺伝子だとある先生が言いました)そういう彼らに「もっと視野を広げて」、「もっと大きくなって」欲しい気持ちは私たちも廣瀬先生と同じです。将来きっと世の中の人たちを幸せにする仕事をする子たちです。日頃の授業、行事、そして瑞陵ならではの本物に触れられる機会(濱島奨学事業、歌舞伎ポプラシート、大学の授業が体験できるセミナーなど)も利用して、今後も先生のご遺志を継いで瑞陵生を育てていきたいと思っています。ありがとうございました。

【研修日程および見学項目】

2010年7月22日～7月31日

研修地 フランス

瑞陵生徒14名・引率者3名・団長 村松憲一(瑞19回)

- 7月22日 セントレア泊
- 7月23日 成田・パリ経由ニースへ(ニース泊)
- 7月24日 ヴェルドン渓谷  
サントクロワ湖  
ディニュレバン アンモナイト壁・博物館見学  
エクサンプロバンス散策(エクサンプロバンス泊)
- 7月25日 アルルへ(ヴァンゴッホ橋→古代劇場→円形闘技場→コンスタンタン共同浴場→地下回廊→レピュブリック広場)  
ボンデュガールへ 水道橋・博物館  
ファーブル記念館見学  
アヴィニヨンへ 散策(アヴィニヨン泊)
- 7月26日 サンベネゼ橋→法王庁見学 自由散策  
アヴィニヨン発 TGV(列車)でパリへ  
凱旋門見学 シャンゼリゼ散策(パリ泊)
- 7月27日 一泊分の荷物を持ちパリ発  
エトルタへ アモン断壁→海岸→アヴィル断壁  
ランディングビーチ アロマンシュ(ノルマンディ)上陸博物館見学  
ドイツ軍トーチカ跡見学  
モンサンミッシェルへ  
夜のモンサンミッシェル修道院見学  
(モンサンミッシェル泊)
- 7月28日 出発までモンサンミッシェル自由散策  
カンカルの海岸で休憩  
ランス川潮汐発電所見学  
パリへ戻る 地下鉄体験・モンパルナスへ  
(パリ泊)
- 7月29日 コンコルド広場  
ルーブル美術館(自由見学・セルフガイド)  
パスツール研究所ミュージゼ見学+細胞遺伝学研究所見学  
オペラ座付近で自由散策  
リュクサンブール公園散策  
夜のオルセー美術館見学(自由見学・セルフガイド)  
(パリ泊)
- 7月30日 ラスパイユ朝市を体験  
ソルボンヌ大学から徒歩でノートルダムへ  
ノートルダム寺院自由見学 周辺自由散策  
自然史博物館見学(進化館+古生物館 セルフガイド)  
パリ発
- 7月30日 帰国(成田経由 中部国際空港)





## きょうは何の日 杉原千畝企画を制作して

株式会社 日テレアックスオン  
企画戦略センター兼情報ニュースセンター

ディレクター 金澤 知子 (瑞43回)



杉原千畝

この名前を初めて聞いたのは中学生の頃でした。

瑞陵高校のOBから「多くのユダヤ人の命を救った偉人」が卒業した学校だと聞き、杉原千畝について調べたことを覚えています。

第二次世界大戦中、リトアニアの在カウナス領事館に赴任していた杉原は、暴力や権力ではなく自らの良心に従い、ドイツ占領下から逃れてきたユダヤ人にビザを発給。たった一人で約6千人の命を救ったのです。

大学を卒業後、テレビ番組のディレクターをするようになり、いつか、先輩である杉原千畝を番組で取り上げたいと思っていました。

ついに、その日はやってきました。当時、DON! (日本テレビ系列) という番組の中のコーナー「きょうは何の日」を担当していました。20年以上も続いている名物企画で、その日、過去にどんな事が起きたのか、映像や写真とともに振り返るドキュメンタリーです。

まず、担当する日の過去に何が起きたのかを、インターネットや新聞、放送されたニュースのVTRなどでリサーチします。そして、候補を絞り、最終的に会議でテーマを決定します。その分野は幅広く、これまで私が担当した作品では「日航ジャンボ機が墜落した日」や「坂本弁護士一家が殺害された日」、「世界で初めてマンタが水槽で生まれた日」「館ひろしの誕生日」「石川遼選手が史上最年少優勝を勝ち取った日」など多岐にわたります。

リサーチを進める中で私は「杉原千畝の孫と助けたユダヤ人の孫が対面した日」という新聞記事を見つけました。記事によると杉原千畝によって命を救われたユダヤ人ドラ・グリーンバーグさんの孫がオーストラリアから杉原の孫である中村まどかさんを訪ね『そのビザがなければ今の自分たちはここにはない』と感謝の思いを伝えたのです。

実はドラ・グリーンバーグさんは杉原からビザを渡されたとき、お腹には子供がいました。杉原のビザで彼女は日本への脱出に成功し無事男の子を出産。その後オーストラリアへと渡ったのです。その孫が、杉原の孫に会いに来たのです。

まず、杉原千畝のご家族である杉原美智さんに連絡し、番組の主旨を説明しました。瑞陵高校出身だと告げると「西郷先生をはじめ、瑞陵会は父を大切にしてくださいね」と言って快く引き受けてくださいました。そして、中村まどかさんの自宅に伺いインタビューをさせて頂くことになりました。そのインタビューの中で忘れられない話があります。

外交官時代の話は杉原家にとってタブーだったそうです。その理由をまどかさんはこう語りました。『リ

トアニアで生まれた千畝の子供の一人が、日本に帰ってきたときに病気で亡くなったからだだと思います。祖母から聞いた話では、すごく出血したらしいのです。バケツ1杯分ぐらい出血してしまいました。そして「神様はなんで助けてくれないのだろう」と言って庭に飛び出して祖父が泣いていたという話を私は聞いているので、やっぱり色々なことが悲しくて苦しかったのではないかなと思います』

ビザを発行したことで多くの命は救えたが、その後、日本に戻るまでの過酷な日々が、息子を死なせてしまったのではないかと自分を責めていたそうです。しかし、杉原は亡くなる前にこう語ったと言います。

『私のしたことは外交官として間違ったことだったかもしれない。しかし 私には 頼ってきた何千人もの人を見殺しにすることはできなかった。もし、またあの場に遭遇したら同じことをするだろう』

私は、この話を中心に杉原千畝の人生を描きたいと思いました。そして、杉原千畝の勇気ある決断によって救われたひとつの命が、子供に、そして孫にと世界中で受け継がれているということ、一人でも多くの人に伝えたいという思いで構成表を書きました。

必要な写真や映像を集める作業が始まります。当時の写真、ユダヤ人虐待の映像、そして、八百津町や杉原美智さんなどのご協力によって杉原本人の肉声テープもお借りすることができました。また、ホロコースト教育資料センターの方が杉原の決断と行動について小学校の授業で子供たちに伝えているシーンを撮影しました。さらに分かりやすく伝えようと、2005年に放送された「日本のシンドラ 杉原千畝物語・六千人の命のビザ」という反町隆史さん主演のドラマを使いました。実はこのドラマのプロデューサーである読売テレビの岡本氏も杉原の妻幸子さんが書かれた本を読み、多くの人に杉原のことを知ってもらいたいという強い思いでドラマ化が実現したそうです。

今回、取材中に、廣瀬清市瑞陵高校奨学事業で瑞陵生がリトアニアやポーランドに行ったことや瑞陵会が杉原千畝関連の企画にいろいろ参加していることを知りました。番組では取り上げることができませんでしたが、いつか、また企画をして特別番組を作りたいと思っています。

写真や映像が集まったところで、これらの素材を編集し、台本を作成、テロップ、音楽、ナレーションを入れ、およそ2週間でVTRが完成しました。オンエア当日、MCの中山秀征さんや、出演者であるヨネスケさんや今田耕司さんなど、涙を浮かべながら真剣にVTRを見てくれていた姿が印象的でした。

私は、この番組を制作しながら何年かぶりに思い出したことがあります。それは瑞陵高校の校風である「自由」「自主」「自律」という言葉です。日本政府の命令に逆らいユダヤ人にビザを発給し、6000人ものユダヤ人の命を救った杉原千畝。その行動には、母校の校風が影響していたのかもしれませんが。私は、瑞陵高校で学べたことを誇りに思いながら「自由」「自主」「自律」の精神を忘れず、これからも番組を作り続けていきたいと思っています。

(注 金澤さんが担当したコーナーは、2011年1月26日(水)12時50分からの15分間に日本テレビ系、名古屋屋では中京テレビで全国放送されました。)

瑞陵高校・瑞陵会 杉原千畝氏関連の記録  
(生誕100年以降)

2000年(平成12年)  
7月30日 岐阜県八百津町で行われた杉原千畝記念館開館式に生徒会メンバーが参加  
9月15日 杉原千畝生誕100周年記念展 in 瑞陵  
愛知県立瑞陵高等学校 記念祭(文化祭 一般開放)  
企画 愛知県立瑞陵高等学校生徒会 協力 瑞陵会(同窓会)  
10月23日 同窓会主催による「センポ・スギハアラ」(劇団銅鑼)観劇会を実施 愛知県勤労会館講堂(鶴舞)  
全日制生徒全員・定時制生徒希望者、教職員・PTAが鑑賞  
2004年(平成16年)  
10月23日 エスペラント協会の行事に出席するため愛知県を訪れていた駐日リトアニア大使クジス閣下と犬山ホテルで会見。海外派遣事業に関してのアドバイスを受ける。(村松・西郷)  
2005年(平成17年) 日本国際博覧会(愛・地球博)開催  
6月4日 瑞陵会役員とリトアニア館スタッフ(サンドラ館長、エグレさん、アグネさん、)と会食 愛知県陶磁器資料館  
7月6日 リトアニアデーの記念式典およびリトアニア館内でのセレモニーに参加 生徒は定期試験中のため参加せず、卒業生がリトアニア首相に花束を贈呈した。  
8月27日 リトアニア館主催の杉原千畝イベントに生徒参加(杉原美智さんに花束贈呈)  
8月28日 平成17年度瑞陵会総会にてサンドラ館長をお招きして講演していただく。講師: サンドラ・アドマヴィチューテさん(愛・地球博リトアニア共和国館館長)  
演題: リトアニアと日本(リトアニア語・日本語通訳付き)  
2006年(平成18年)  
7月8日 廣瀬清市瑞陵高校奨学事業の生徒参加事業で八百津の杉原記念館見学  
7月 廣瀬清市瑞陵高校奨学事業 第3回事業として生徒14名をリトアニア・ポーランド派遣  
カウナス・杉原記念館に五中-瑞陵高校関係の写真を多数贈呈



2007年(平成19年)  
7月 廣瀬清市瑞陵高校奨学事業の生徒参加事業で八百津の杉原記念館見学  
7月 廣瀬清市瑞陵高校奨学事業 第7回事業として生徒13名をリトアニア・ポーランド派遣(10月 五中-瑞陵創立百周年記念式典 御園座 歌舞伎顔見世鑑賞)  
2008年(平成20年)  
4月26日・27日 ミュージカル「SEMPO」日本のシンドラ 杉原千畝物語 吉川晃司 初主演 中島みゆき初ミュージカル作品提供 名古屋公演: 名鉄ホール 瑞陵会では、廣瀬清市瑞陵高校奨学事業の一つとして、瑞陵高校の生徒に紹介し、鑑賞した。生徒にはチケット代の補助をすることにした。(実際にはチケット完売状態で実施できず)  
11月9日 杉原幸子お別れ会 東京・青山葬儀所 杉原幸子さんのお別れ会には瑞陵会からお花を献じた。ユダヤ人、イスラエル大使館関係者など多くの人々が集った。ミュージカルで杉原役を演じた吉川晃司さんやドラマで幸子さん役を演じた秋吉久美子さんも参加されていた。リトアニア・カウナスの杉原記念館(旧領事館)館長のシモナスさんは今回はリトアニア大統領の親書を携え参列されていた。廣瀬清市瑞陵高校奨学事業のリトアニア派遣以来1年半ぶりに再会となった。(西郷 孝)  
2010年(平成22年)  
3月13日 ライオンズクラブ9R1Z2Z合同アクティビティ「決断〜命のピザ〜杉原千畝物語」名古屋市教育センター 出演(一人芝居)水澤心吾さん お話し 杉原美智さん 瑞陵生も参加、杉原さんと水澤さんに花束贈呈

第12回瑞陵会ゴルフコンペの報告

瑞陵会ゴルフ幹事 木村 鍾 治(瑞18回)

平成22年10月27日、第14回コンペを東名古屋C・Cにて、また23年5月25日、さなげC・Cにて第15回コンペを実施致しました。参加者は14回コンペが15名(男性10、女性5)、15回コンペが14名(男性11、女性3)という状況でした。

特に15回コンペでは関東瑞陵会から18回の安島正実様、19回の稲葉賢治様にご参加頂くとともに、さらには大先輩であります5回生の村瀬範晃様、また、若手では20回生の伊藤康郎様に初参加をして頂き、先輩後輩和気藹々と楽しい1日を過ごすことができました。

私がゴルフ幹事をさせて頂いてから、既に今年で4年目となり、7回のコンペを実施してまいりました。現在会員数は50名で、昨年より増えておりますが、参加される方があまり変わらないのは、幹事の不徳のなせるところと反省しております。今後は少しでも多くの方に参加して頂けるよう色々工夫していきたいと考えております。また、同期生同士では結構盛んにゴルフコンペを行っていると聞いております。ぜひ同期の方をお誘い頂き、本同窓会親睦コンペに参加して、本会を盛り上げて頂ければ幸いです。

なお、瑞陵会本部におかれましては、本親睦会ゴルフコンペも含め各種の親睦行事を計画して、予算的なサポートをすることにより、それらを事業の一環として位置づけ、その活動を奨励して頂ければ、より一層の同窓生の親睦が図られるのではないかと思量するものであります。

試合は新ペリア(ダブルペリア)方式で実施、結果は次の通りです。(敬称略)



14回コンペ (H22・10・27)			15回コンペ (H23・5・25)		
	氏名	卒業期		氏名	卒業期
優勝	滝山 昭	16回	優勝	村瀬 範晃	5回
準優勝	土屋 頼信	18回	準優勝	斎藤 二郎	13回
3位	岩野 哲郎	18回	3位	柴垣 純平	13回
5位	立木 勝義	定16回	5位	坂東 信吾	13回
7位	塚田 昌夫	13回	7位	岩野 哲郎	18回
10位	岡本 勝代	15回	10位	岡本 勝代	15回

第16回ゴルフコンペのご案内

平成23年10月26日(水)

新陽C・C又は森林公園G・Cを計画しています。

幹事: 木村鍾治

幹事連絡先: 携帯090-4850-4392 FAX: 052-205-6321

E-Mail: kimurashouji0601@yahoo.co.jp

# 瑞 陵 会 報

## 平成22年度 瑞陵会会計決算書

収入済額 4,830,858円 支出済額 2,965,379円  
 残額 1,865,479円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	収入済額	増減額	摘要
繰越金	1,873,151	1,873,151	0	前年度から繰越
繰入金	0	928,975	928,975	積立金会計から繰入
入会金	1,170,000	1,173,000	3,000	3,000円×391名
参加費	500,000	510,000	10,000	総会参加費
賛助金	1,000	306,180	305,180	賛助金、名刺広告収入等
雑収入	849	39,552	38,703	預金利息等
合計	3,545,000	4,830,858	1,285,858	

支出の部

項目	予算額	支出済額	残額	摘要
事務費	950,000	469,113	480,887	
報償費	550,000	240,000	310,000	表彰費等
通信費	150,000	43,058	106,942	電話料・郵便切手等
需用費	250,000	186,055	63,945	電気料・消耗品費等
会議費	250,000	144,725	105,275	
役員会	100,000	105,850	△5,850	会議経費
委員会	50,000	0	50,000	*
幹事会	50,000	16,170	33,830	*
需用費	50,000	22,705	27,295	*
事業費	2,200,000	2,351,541	△151,541	
交流会会場費	1,150,000	1,699,605	△549,605	懇親会費等
印刷費	650,000	573,426	76,574	会報等印刷費
学校支援事業	400,000	78,510	321,490	進路セミナー講師謝礼等
予備費	145,000	0	145,000	
合計	3,545,000	2,965,379	579,621	

## 平成22年度 瑞陵会積立金会計決算書

収入済額 6,052,156円 支出済額 928,975円  
 残額 5,123,181円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	収入済額	増減額	摘要
繰越金	6,042,875	6,042,087	0	前年度から繰越
繰入金	0	0	0	百周年記念事業会計から繰入
雑収入	15,125	9,281	5,844	預金利息
合計	6,058,000	6,052,156	5,844	

支出の部

項目	予算額	支出済額	残額	摘要
繰出金	0	928,975	△928,975	瑞陵会会計に繰出し

\*瑞陵会ポプラシート事業（御園座観劇、5月・10月・2月）  
 支出額 751,575円（残額 1,917,982円）

## 平成23年度 瑞陵会会計予算書

収入予算額 3,537,000円 支出予算額 3,537,000円  
 差引額 0円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	前年度収入額	増減額	摘要
繰越金	1,865,479	1,873,151	△7,672	前年度から繰越
繰入金	0	928,975	△928,975	積立金会計等から繰入
入会金	1,170,000	1,173,000	△3,000	3,000円×390名
参加費	500,000	510,000	△10,000	総会参加費
賛助金	1,000	306,180	△305,180	賛助金、名刺広告収入等
雑収入	521	39,552	△39,031	預金利息等
合計	3,537,000	4,830,858	△1,293,858	

支出の部

項目	予算額	前年度支出額	増減額	摘要
事務費	950,000	469,113	480,887	
報償費	550,000	240,000	310,000	表彰費等
通信費	150,000	43,058	106,942	電話料・郵便切手等
需用費	250,000	186,055	63,945	電気料・消耗品費等
会議費	250,000	144,725	105,275	
役員会	100,000	105,850	△5,850	会議経費等
委員会	50,000	0	50,000	*
幹事会	50,000	16,170	33,830	*
需用費	50,000	22,705	27,295	消耗品等
事業費	2,200,000	2,351,541	△151,541	
交流会会場費	1,150,000	1,699,605	△549,605	懇親会費等
印刷費	650,000	573,426	76,574	会報等印刷費
学校支援事業	400,000	78,510	321,490	生徒向け講演会講師料等
予備費	137,000	0	137,000	
合計	3,537,000	2,965,379	571,621	

## 平成23年度 瑞陵会積立金会計予算書

収入予算額 5,130,000円 支出予算額 0円  
 差引額 5,130,000円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	前年度収入額	増減額	摘要
繰越金	5,123,181	6,042,875	△919,694	前年度から繰越
繰入金	0	0	0	百周年記念事業会計から繰入
雑収入	6,819	9,281	△2,462	預金利息等
合計	5,130,000	6,052,156	△922,156	

支出の部

項目	予算額	前年度支出額	増減額	摘要
繰出金	0	0	0	

\*瑞陵会ポプラシート事業（御園座観劇）  
 準備金残額（1,917,982円）

平成23年度瑞陵会役員

名誉会長	山口晴久 (校長)
顧問	鳥居 大 (五37回) 中神 靖 (瑞 3回)
会 長	高木 修 (瑞 5回)
副 会 長	斎藤二郎 (瑞13回) (会長補佐) 伊豆原直 (瑞定15回) (総会・交流会担当) 濱田 堯 (瑞15回) (ポプラシート事業担当) 浜島昭二 (瑞19回) (会報担当)
常任幹事	柴田章子 (実 1回) 熊崎憲次 (五34回) 三浦チエ子 (瑞 5回) 武藤正男 (瑞定 6回) 杉浦弘二 (瑞定 8回) 塚田昌夫 (瑞13回) 稲田萬吉 (瑞14回) 水野茂明 (瑞14回) 伊神勝彦 (瑞15回) 時津 忠 (瑞15回) 江副嘉彦 (瑞16回) 岩野哲郎 (瑞18回) 木村鍾治 (瑞18回) (親睦会担当) 小林俊光 (瑞18回) 加藤 茂 (瑞19回) 佐合広利 (瑞20回) 寺田志郎 (瑞20回) 濱島誠一郎 (瑞20回) 澤田耕一 (瑞21回) 西郷 孝 (瑞27回)
庶 務	日比野憲一 (全日教頭) 牛田 守 (全日教頭) 神谷 貴 (瑞 6回、旧職員) 坂野季秋 (瑞定18回、旧職員) 長谷部美智子 (瑞19回、旧職員) 森 重統 (瑞20回、旧教頭) 鈴木英利 (瑞27回、学校担当、会計、現職)
会 計	牧 尚登 (事務長)
監 査	大谷宣生 (定時教頭) 河津弓彦 (瑞 4回)

コスモサイエンスコースにおける活動

平松 雅大 (瑞陵高校職員)

平成19年度から瑞陵高校・普通科に「コスモサイエンスコース」が設置され本年度で5年目になります。当初からコースとしての目標を、「実験・実習を通して、比較的高度な理科的・数学的な見方・考え方を学ぶとともに科学的素養を身につけ、国際的な視野をもった将来の科学技術開発を担う人材を育成する」こととしています。またコスモサイエンスコース1期生が2年生に進級した平成20年度初めに、「愛知スーパーハイスクール研究指定事業(教育課程部門)」の募集があり、瑞陵高校として応募し、3年間の研究校に指定され「自然科学教育における、高大連携による体験的プログラムを中心としたカリキュラム開発」を行ってきました。

<平成22年度の具体的活動内容(高大連携プログラム)>

1年生

(1)「特別授業」

- 第1回:「実践型地域研究の紹介」についての講義
- 第2回:生物分野「ストレスと脳」についての講義
- 第3回:数学分野 数学分野の実験への応用の講義  
「三角関数を用いて“電気”をどのように表現し応用していくかを実験を通して学ぶ」

(2)「校外学習」

- 第1回:生物分野「知多半島荒磯松海岸の磯の観察および半田酔の里」見学
- 第2回:地学分野「名古屋市科学館」での講義・見学
- 第3回:地学分野「豊橋自然史博物館」での微化石実習
- 第4回:生物分野「岐阜県先端科学技術体験センター」での遺伝子工学入門講座

2年生

総合的な学習の時間を「最先端の科学に触れる、興味を持つ」「高校で学習していることが、大学やその先にどうつながるか、何のために学んでいるかがわかる」目標とする“サイエンス講座”を実施。

- 第1回:化学分野 超高分解能顕微鏡についての実験実習
- 第2回:物理分野 点滅回路の制作実験と仕組みについての講義実習
- 第3回:物理分野 核融合科学研究所(岐阜県土岐市)にて実験・施設訪問
- 第4回:数学分野 「(連立)方程式とCTスキャン」についての講義
- 第5回:数学分野 本校教諭による「ガロア理論」講義
- 第6回:英語分野 理工英語の講義
- 第7回:生物分野 英語による生物実験実習  
《JSPSサイエンスダイアログ事業》
- 第8回:化学分野 「電池(燃料電池と太陽電池)」についての実験実習
- 第9回:数学分野 「Mathematicaの世界」についての講義
- 第10回:物理分野 「LEGOを用いたシステム工学」についての講義・実習

3年生

- 第1回:化学分野 豊田工業大学による有機化合物についての講義

コスモサイエンスコース生徒対象

学習発表会;本校体育館で中・高の教員及び生徒対象記念講演会;ノーベル賞受賞者益川敏英(名古屋大学特別教授)  
「-現代社会における科学の意味-」

<成果・課題>

体験型カリキュラムは教員主体で立案され、生徒はその内容を実施しています。その中に、生徒が課題を見つけ解決する方法を習得できるように工夫する必要性を感じています。

また、平成21年度より中学生への学習内容・成果の発表会として学習発表会やコース説明会で学習内容をまとめて、生徒によるプレゼンや自作資料・動画編集による活動内容の紹介などを実施しています。生徒は、発表に際して学習内容を深く理解し直し、発表内容を簡潔に中学生でも理解できるように工夫していました。この経験は、自ら考え課題をみつけ解決する行動につながると考えています。

瑞陵進路セミナー

瑞陵高校では、各方面で活躍する研究者や職業人を迎えての生徒向け進路セミナーを、毎年十数回、授業後に行っています。卒業生の方々にもご協力をいただいております。講師の自薦・他薦の情報は瑞陵高校の進路指導部までお寄せください。

前号掲載分のあと、瑞陵高校出身の講師によるものは次のとおりです。

- (実施日) (内容と講師 (敬称略))
- 11. 6. 3 「法学入門」  
愛知県弁護士会 弁護士  
白井 幹裕 (瑞33回)
  - 11. 6. 9 「結び目のトポロジー」  
名古屋市立大学システム自然研究科准教授  
鎌田 直子 (瑞32回)
  - 11. 6. 14 「バン格拉デシュの村人に学ぶ」  
京都大学東南アジア研究所准教授  
安藤 和雄 (瑞25回)

部活動の活躍から

平成22年度 全国大会

(全日制)

- 文芸部 全国高校総合文化祭
- 陸上競技部 全国高校総合体育大会
- 棋道部 全国高文連新人戦 (将棋)

(定時制)

- バドミントン部 全国高校定通大会

平成23年度は次の部が全国大会に出場します。

- 陸上競技部 高校総体 男子800m、女子走高跳、女子走幅跳 8/4～6 岩手
- 棋道部 全国高文祭 (将棋)
- 女子個人 8/4～5 福島

定時制陸上競技部 全国定通大会

女子400mR 8/13 国立競技場

名古屋市立県立高校体育大会 (23校中)

男子総合 第3位 女子総合 第3位

陸上男子は総合優勝 陸上女子も総合優勝 剣道男子団体準優勝 野球3位 男子バドミントン優勝 女子バドミントン3位 男子テニス3位 サッカー優勝 水泳部男子 400mR 2位・200m背3位・200m平3位、女子100mバタフライ2位、女子200m個人メドレー R3位 柔道男子3位

陸上競技部 県高校総体 女子総合5位・走高跳び優勝・800m 2位・400mH 3位・1600mR 3位・やり投げ4位 男子砲丸投げ3位・400m 4位・三段跳び5位・やり投げ5位・1600mR 6位 東海高校総体

女子走高跳び優勝・400mH 3位・800m 4位・1600mR 4位 男子三段跳び8位 全国高校総体 女子走高跳び14位・1600mR予選5位・400mH予選6位・800m予選8位

愛知陸上選手権 女子1600mR優勝・三段跳び2位・400m 4位走高跳び5位・やり投げ6位

愛知レディース陸上 三段跳び優勝・3000SC 3位

愛知県新人大会 女子総合7位 女子走高跳び優勝

国民体育大会 女子走高跳び5位

日本ユース陸上選手権 女子走高跳び優勝 1m75

(大会タイ)

県高校総体 陸上部以外に

男子バドミントン 女子バドミントン サッカー

水泳男子 水泳女子 柔道男子 弓道が県大会出場

サッカー部 全国高校サッカー選手権で県大会出場

棋道 (将棋) 部 全国高校将棋選手権愛知県大会

男子団体ベスト8 男子個人ベスト8 東海三県高校大会Aリーグ3位

映画研究部 8mm映画の会最優秀賞 高校生映画コンクール優秀規定作品

大学入試状況

大学合格者延べ数 過年度卒業生も含む (一部の大学のみ掲載)

	23年度入試	22年度入試	21年度入試		23年度入試	22年度入試	21年度入試
北海道大	1	5	1	青山学院大	4	2	8
筑波大	5	0	1	慶応義塾大	1	3	5
千葉大	3	1	1	早稲田大	9	7	11
東京工業大		1	1	明治大	22	20	13
東京外国語大	1	0	0	法政大	11	10	12
横浜国大		1	4	立教大	4	9	1
富山大	4	2	1	中央大	5	9	12
金沢大	4	1	1	東京理科大	11	20	8
福井大		1	0	愛知大	33	22	27
信州大	4	5	3	愛知学院大	14	14	20
静岡大	3	11	6	愛知淑徳大	53	37	61
愛知教育大	10	12	16	金城学院大	8	12	13
名古屋大	16	30	12	椋山女学園大	18	15	22
名古屋工業大	17	13	14	中京大	71	56	88
岐阜大	7	7	20	豊田工業大	4	4	3
三重大	12	15	18	南山大	108	88	128
京都大	0	0	1	名城大	83	66	81
大阪大	1	1	2	京都女子大	4	5	2
神戸大	2	3	2	立命館大	51	72	91
首都大学東京		4	0	同志社大	17	41	28
愛知県立大	6	7	15	関西大	10	9	15
名古屋市立大	6	11	11	関西学院大	4	7	8
国公立大学計	113	147	144	私立大学計	695	653	787

瑞陵会ホームページのご案内

今年度から会報は瑞陵会のホームページにも掲載しています。

今まで郵送でお届けしていた同窓生で、ホームページがあれば郵送不要と思われる方は、編集委員までお知らせください。shoji.hamajima@gmail.com

編集後記

平成23年度の瑞陵会報をお届けします。ご執筆いただいた皆さまおよび執筆依頼の仲介を引き受けていただいた方々に感謝いたしますとともに、今年もまた発行が遅くなってしまいましたこととお詫び申し上げます。

山口校長先生もお書きになっているように、今年はなんといっても東日本大震災とそれに関連する原子力発電所の事故が起きた年として、言葉を失う映像とともに長く私たちの共通の記憶に刻まれ、我が国の歴史の中で語り継がれていくに違いありません。

多くの尊い命が失われ、生活が破壊されたことに対する衝撃と深い悲しみを私たちは忘れてはなりません。同時に、世界中から寄せられた支援と連帯の心も記憶にとどめたいと思います。常日頃関係がぎくしゃくしがちな国々もいち早く緊急援助隊を送ってくれましたし、本来は自分たちのことで精いっぱい国々も義援金を寄せてくれました。国という境目を超えて痛

役員・幹事の皆様へ

委員会活動などで瑞陵会の封筒を用いて文書を発送される場合は、必ず発信者のお名前を封筒の発信人欄にお書きください。発信者名がないと「宛先人不明」等の理由で印刷された高校の住所に返送された場合、連絡ができません。(瑞陵会事務局)

みを分かち合い、手を差し伸べる。これもまたグローバル化です。

その中で私たちは、同郷、異国を問わず、人々の苦しみを感じられる心を持った者でありたいと思い、この世界に日本と日本人があることは望ましいことだと思ってもらえるようにしなければなりません。

その一方で、そうした「こころ」や「こころざし」を「行為」に移していくべき場での混乱や非効率にはもどかしさを感じずにはられません。この未曾有の大災害も日本はきつとうまく乗り越えていこう、という世界が当初抱いた期待はみるみるしぼんでしまいました。

すべては「想定外」だったのでしょう。しかし、MCA (maximum credible accident) が「知」を尽くして想定されたのか、それが現実となったとき、対応に必要な「構想力」、「組織力」、「実行力」といった「知」を学ぶ努力を私たちは怠ってきたのではないかを問い直さなければなりません。

後輩諸君の奮闘を期待し、同窓各位のご健勝を祈念して編集後記といたします。(S.H.)

瑞陵法曹会有志一同

高木・井上法律事務所

高木 修 (瑞5回)  
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-2-7  
丸の内弁護士ビル901号  
TEL.052-201-7656 FAX.052-204-1244

東海法律事務所

石川智太郎 (瑞11回)  
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-35  
弁護士ビル901・902号  
TEL.052-961-0651 FAX.052-961-0653

柴田法律特許事務所

柴田 肇 (瑞15回)  
〒440-0814 豊橋市前田町1-2-11  
TEL.0532-53-7087 FAX.0532-54-2106

中部綜合法律事務所

長谷川忠男 (瑞15回)  
〒461-0001 名古屋市中区東区泉2-3-20  
長谷川ビル3階  
TEL.052-931-9192 FAX.052-931-6062

弁護士法人希望 さくら綜合法律事務所

加藤謙一 (瑞19回)  
〒514-0007 三重県津市大谷町21-8  
TEL.059-227-6951 FAX.059-225-5943

加藤茂法律事務所

加藤 茂 (瑞19回)  
〒466-0064 名古屋市中区昭和区鶴舞3-8-9  
TEL.052-732-7821 FAX.052-732-7822

中村正典法律事務所

中村正典 (瑞21回)  
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-6-27  
EBSビル2階  
TEL.052-971-7424 FAX.052-971-7425

金山綜合法律事務所

渥美玲子 (瑞22回)  
〒460-0022 名古屋市中区金山1-9-17  
金山スズキビル8階  
TEL.052-331-9054 FAX.052-331-9060

弁護士法人 岐阜合同法律事務所

安藤友人 (瑞22回)  
〒500-8812 岐阜市美江寺町1-5  
岐阜北青色会館  
TEL.058-264-3780 FAX.058-264-3784

成田龍一法律事務所

成田龍一 (瑞23回)  
〒460-0003 名古屋市中区錦3-14-14  
夢現錦ビル6階  
TEL.052-973-0531 FAX.052-973-0533

後藤・木村合同法律事務所

後藤和男 (瑞24回)  
〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-10-23  
三の丸ビル2階  
TEL.052-202-0680 FAX.052-203-1417

大島真人法律事務所

大島真人 (瑞26回)  
〒460-0003 名古屋市中区錦2-19-1  
名古屋鴻池ビル9階  
TEL.052-220-2225 FAX.052-220-2228

白井法律事務所

白井幹裕 (瑞33回)  
〒460-0003 名古屋市中区錦3-1-30  
錦マルエムビル3階  
TEL.052-218-0566 FAX.052-221-5656

光が丘法律事務所

佐藤成俊 (瑞38回)  
〒464-0006 名古屋市中区千種区光が丘1-18-3  
TEL.052-712-3350 FAX.052-712-3352

ジェイ・ユー・エヌ服部順法律事務所

服部 順 (瑞38回)  
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-25  
清風ビル5階  
TEL.052-962-8511 FAX.052-962-8512